

河西太一郎先生略歴および著書

- 一 明治二十八年 三月 大阪府和泉市松尾寺町に河西仲次郎四男として生まる。
- 一 明治四十五年 三月 大阪府立堺中学校卒業。
- 一 大正 六年 七月 第一高等学校独法科卒業。
- 一 同 年 九月 東京帝国大学法学部政治学科入学。
- 一 大正 七年 十二月 新入会の結成に参加す。
- 一 大正 九年 二月 新入会主催の「森戸問題」に関する宣伝演説会において石渡春雄、阿部次郎の両氏と共に「大学の独立」なる論題で講演す。
- 一 同 年 九月 東京帝国大学法学部政治学科卒業。
- 一 同 年 十月 大原社会問題研究所助手に就任す。
- 一 同 年 十一月 安藤文子と結婚す。
- 一 大正十二年 三月 大原社会問題研究所の財政事情による規模縮小のため、同僚の林要、丸岡重堯、山村喬、八木沢善次の諸氏と共に同研究所を去る。
- 一 同 年 四月 立教大学商学部教授に就任す。同年三月発会せる立教大学経済学研究会は四月、新任の河西教授を迎えてその指導の下に四十余名の会員を擁す。

一 大正十二年 六月

訳書、カール・カウツキー、カール・マルヒオニニ『農業の社会化』(Karl Kautsky; Die Sozialisierung der Landwirtschaft, Berlin, Paul Cassirer, 1921. および Karl Marchionini; Ein Plan zur Sozialisierung der Landwirtschaft, Leipzig, Leipziger Buchdruckerei, 1920. を収む)をアルス社より出版す。

一 大正十四年 六月

訳書、シリューチン『社会主義と農業問題』(W. P. Miljutin; Sozialismus und Landwirtschaft, 1920.)を同人社より出版す。

一 大正十五年 五月

著書『農業問題研究』を改造社より出版す。

一 昭和三年 一月

訳書、ヴィルヘルム・リープクネヒト『土地問題論』(Wilhelm Liebknecht; Zur Grund- und Bodenfrage, 2 Aufl., Leipzig, 1876.)を改造社より出版す。

一 同 年 七月

春秋社版『大思想エンサイクロペディア』第二十巻に「農村社会問題」を執筆す。

一 昭和四年 六月

改造社版『経済学全集』第二十六巻に「マルキシズム農業理論の発展」を執筆す。

一 昭和七年 九月

立教大学経済学部経済学科長に就任す。

一 昭和十六年 五月

立教大学経済学部長に就任す。

一 昭和十八年 七月

一 昭和十九年 五月

一 昭和二十年 五月

一 昭和二十一年 一月

一 同 年 五月

一 同 年 九月

立教大学教授ならびに経済学部長を辞任す。

調査研究動員本部業務局次長に就任す。

右次長を辞す。

立教大学経済学部教授会および学生の要望により、立教大学教授に再任す。

立教大学経済学部長に就任し、経済学部の再建に貢献す。

著書『マルクス主義に於ける農業理論の発展』〔マルキシズム農業理論の発展〕〔経済学全集〕第二十六卷、昭和四年、「農業恐慌論」（立教商学論叢）第二号、昭和五年）および「都市対農村関係の過去、現在、未来」（同上第四号、昭和七年）を改訂収録」を研進社より出版す。

財団法人立教学院理事に就任す。

学校法人立教学院常務理事に就任し、立教大学の経営に尽瘁す。

立教大学学生人事部長を兼任す。

経済学博士の学位を受く。

文部省大学設置委員会常任委員に就任す。

立教大学経済学部長を辞任す。

一 昭和二十四年 八月

一 昭和二十六年 四月

一 昭和二十七年 四月

一 昭和二十八年 一月

一 昭和三十年 六月

一 昭和三十四年 六月